

放送大学 アニュアルレビュー 2015

The Open University of Japan Annual Review 2015



2015年度

学位記授与式

2016年3月26日(土)、2015年度学位記授与式を、東京・渋谷NHKホールにおいて挙行了。卒業証書・学位記授与の後、岡部洋一学長式辞、堂故茂文部科学大臣政務官、吉田真人総務省大臣官房審議官からの祝辞に続き、学部卒業生総代土井まゆみさん(東京多摩学習センター)と大学院修了生総代坂本彰さん(高知学習センター)による謝辞があった。その後全専攻または全コースを卒業した28名の『放送大学名誉学生』に対し学長表彰が行われた。続いて、優れた教育活動を行った専任教員を、学生による授業評価や教員の推薦に基づき選考した『放送大学教育功績賞』を近藤智嗣教授が、『優秀授業賞』を高橋和夫教授が受賞した。2015年度の学部卒業生は4,954名、大学院修了生は355名であった。



CONTENTS

学長挨拶	2	社会への貢献	20
オンライン授業の開講	3	学習センターの活動、この1年	22
充実した教育内容	5	放送大学の新たな動き	29
放送大学における研究	13	データで見る放送大学の概要	30
国際交流の取り組み	18		

【編集】

■放送大学アニュアルレビュー2015タスクグループ

生活と福祉/吉村 悦郎 教授	人間と文化/佐藤 良明 教授	担当副学長/小寺山 亘
心理と教育/田中 統治 教授	情報/辰巳 丈夫 教授	(オブザーバー)
社会と産業/齋藤 正章 准教授	自然と環境/大森 聡一 准教授	■総務部広報課

「放送大学アニュアルレビュー2015」は、2015年4月～2016年3月の放送大学の活動を記録したものです。

Annual Review 2015の公刊によせて



2016年11月
学 長 岡部 洋一

2015年4月、比較的放送授業に準拠した形で2科目から開始したインターネットを利用したオンライン授業は、2016年度には開講約10科目を目標に開発が進行している。特に、今年度制作のものは演習型あるいは電子掲示板的な機能をフルに利用した議論型のものが多く、双方向的でかつ多数の学生を相手にできる正にオンライン授業と呼べる授業形態となっている。今後、放送による一方的な講義提示型のものに加え、新しい双方向の教育手法を手に入れたと確信している。

2007年度より開始した放送授業をインターネットで流す、いわゆるネット配信についても、開始以来、ラジオは100%であったが、テレビのものは経費の関係で新規科目についてのみ実行してきたが、本年度で、権利処理の関係で学生に限ってもインターネット上に載せることができない若干の科目を除いて、ほぼ100%となった。現在、さらに、放送授業の新規制作に当り、このような問題が生じないような配慮を行いつつあるので、近い将来、完全に100%になることが期待される。

この他、いくつかの場面でインターネット化は順調に進行しており、就労学生の多い放送大学は、正に新しい方向に向かいつつあると言ってよいであろう。この方向は、自由時間の取りづらい学生に限らず、島嶼部や北海道のように広域で学習センターへのアクセスのよくない学生、さらに、種々の障がいを持つ学生

にも「いつでもどこでも」のサービスを提供することができる。

2015年度は、2016年度開講科目に向けて、学部のカリキュラムの大幅見直しを行った。放送大学は数少ない教養学部一つの大学であり、昔の教養教育のイメージに近い各教師の比較的自由的な講義の集約という形で科目が構成されてきたが、学生の立場から考えると、ある程度の体系化や難易度を示すことなどを行った方がよいであろうということで、その修正を行なおうというものである。

2014年4月に設置した博士後期課程、いわゆる博士課程では、定員10名であるが、2014年10月に第一回生、2015年4月に第二回生と、20名余の学生を受け入れている。当初の設置目標にあるように、広い教養と高い専門性の両立が要求するいわゆる「T字型」の人材を育成すべく、各学生あたり複数の分野の教員が指導を行っている。すでに2016年の第三回生の募集も行っているが、いずれも10倍以上の高倍率を維持している。

博士課程新設に伴い、従来からあった修士課程についても、博士課程との連続性を考慮し、カリキュラムの見直しを開始しつつある。

以上のように、2015年度は、新しい体制へのターニングポイントと言ってもよい年であり、今後共、皆様の支援をいただき、より素晴らしい大学として発展していきたいと思っている。

オンライン授業の開講

新しい学びの環境の提供と社会の要請への即応

放送大学では、すべての教材をインターネットで提供するオンライン授業を2015年度から開講した。オンライン授業では、インターネットに接続できる環境があれば、場所や時間を問わず学習ができ、小テスト、ディスカッションなど双方向性を活かした学習も可能となる。また、放送授業と比べ開講までの時間が短いことから、新しい資格への対応など、社会的要請に即応した科目開講も可能となる。2015年度には、幼稚園教諭免許

状取得に係る特例に対応した「教育課程の意義及び編成の方法（'15）」、「幼児理解の理論及び方法（'15）」の2科目を開講した。さらに、2015年度は2016年度第1学期開設の学部6科目と大学院2科目の制作を行ったほか、第2学期開設の特定行為に係る看護師の研修制度に対応する「フィジカルアセスメント特論（'16）」「医療安全学特論（'16）」「臨床推論（'16）」の3科目の制作に着手した。



2016年度開設学部課程科目

科目名	区分	単位数	主任講師
がんを知る（'16）	生活と福祉 導入科目	2	田城 孝雄(放送大学教授) 渡邊 清高(帝京大学准教授)
女性のキャリアデザイン入門（'16）	生活と福祉 導入科目	1	中野 洋恵(国立女性教育会館主任研究員) 渡辺 美穂(国立女性教育会館研究員)
物理演習（'16）	自然と環境 専門科目	1	岸根 順一郎(放送大学教授) 斎藤 雅子(宇都宮大学非常勤講師)
Javaプログラミングの基礎（'16）	情報 専門科目	1	柳沼 良知(放送大学教授)
感性工学入門（'16）	情報 専門科目	1	黒須 正明(放送大学教授)
メディアと知的財産（'16）	情報 専門科目	2	児玉 晴男(放送大学教授)

2016年度開設大学院課程科目

科目名	区分	単位数	主任講師
eラーニングの理論と実践（'16）	情報学	2	青木 久美子(放送大学教授)
生物の種組成データの分析法（'16）	自然環境科学	2	加藤 和弘(放送大学教授)

新しい学び方、はじまります

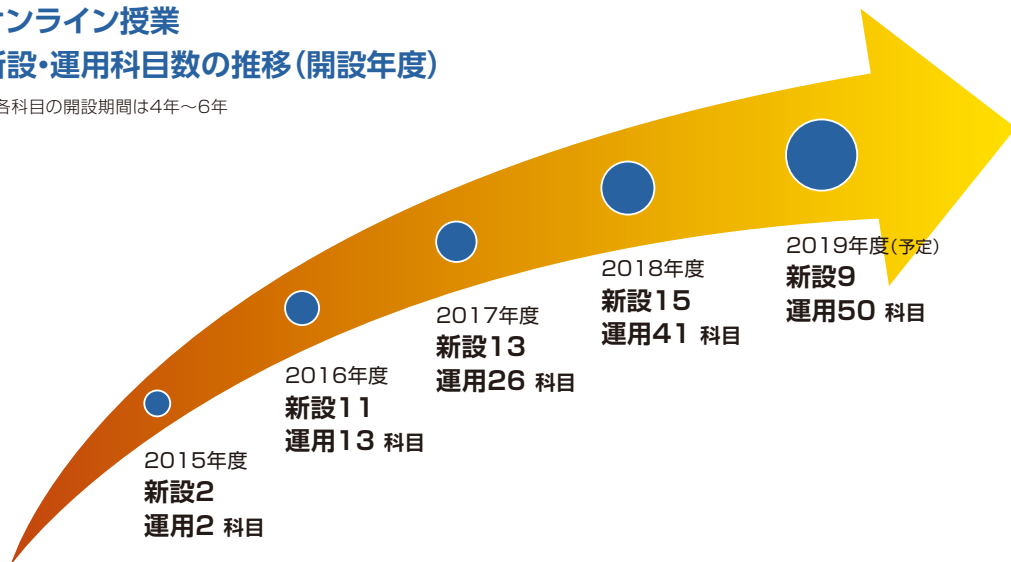
放送大学学生の中にインターネットユーザが増えてきたことも踏まえ、教材の提供をインターネットで行うとともに、インターネットの双方向性を活かして、全ての学習活動をインターネット上で行うオンライン授業の制作を開始した。2016年度開設の科目においては、小テスト、電子掲示板によるディスカッション、レポート提出、プログラミングやデータ解析の実習等、インターネット上での双方向性を活かし、学生の主体性をより重視した学習活動が行われることとなり、放送大学における「新しい学び方」が始まる。



新設・運用科目数の推移

オンライン授業 新設・運用科目数の推移(開設年度)

※各科目の開設期間は4年～6年



制作年度	2015	2016	2017	2018	2019
制作科目数	11	13	15	9(予定)	未定
運用科目数	2	13	26	41	50(予定)
運用単位数	2	17	38	65	65+α

充実した教育内容

テレビ・ラジオによる授業

放送授業

放送授業は、面接授業、オンライン授業と並び、放送大学の教育の中心に位置づけられるものである。2015年度第2学期(2015年10月～2016年3月)には、学部272科目、大学院66科目の合計338科目を開講しており、原則として4年間(毎年2学期間ずつ、合計8学期間)放送している。したがって、全開講科目のおよそ4分の1ずつが、毎年入れ替わる。

2015年度の新規開設科目は、学部58科目(テレビ

34科目、ラジオ24科目)、大学院18科目(テレビ3科目、ラジオ15科目)の合計76科目である。

2015年度全開講科目数

	第1学期		第2学期	
	テレビ科目	ラジオ科目	テレビ科目	ラジオ科目
学部	156	114	156	116
	270		272	
大学院	20	46	20	46
	66		66	
合計	176	160	176	162
	336		338	

2015年度新規開設科目一覧(学部) (TV=テレビ、R=ラジオ)

科目区分	科目名称	メディア
基礎科目	グローバル化と私たちの社会('15)	R
	市民自治の知識と実践('15)	R
	新しい時代の技術者倫理('15)	TV
	はじめての気象学('15)	TV
	自然科学はじめての一步('15)	TV
	日本語とコミュニケーション('15)	TV
共通科目	教育学入門('15)	R
	教育の社会学('15)	TV
	人格心理学('15)	TV
	日本の近現代('15)	R
	ヨーロッパの歴史I('15)	TV
	『古事記』と『万葉集』('15)	R
	貧困と社会('15)	R
	社会調査の基礎('15)	TV
	英語で描いた日本('15)	TV
	英語で読む科学('15)	R
	ドイツ語I('15)	TV
	ドイツ語II('15)	R
生活と福祉	生活環境と情報認知('15)	TV
	今日のメンタルヘルス('15)	TV
	認知症と生きる('15)	TV
	健康長寿のためのスポーツロジー('15)	TV
	公衆衛生('15)	R
	少子社会の子ども家庭福祉('15)	TV
	社会福祉の国際比較('15)	TV
高齢期の生活と福祉('15)	R	
専門科目	日本の教育改革('15)	R
	乳幼児の保育・教育('15)	R
	道徳教育の方法('15)	R
	特別支援教育基礎論('15)	R
	特別支援教育総論('15)	R
	知的障害教育総論('15)	R
	現代日本の教師—仕事と役割—('15)	R
	幼児教育の指導法('15)	R
	心理カウンセリング序説('15)	R
	財政と現代の経済社会('15)	TV
	現代日本の政治('15)	TV
ロシアの政治と外交('15)	R	
グローバル化と日本のものづくり('15)	TV	
環境の可視化('15)	TV	

科目区分	科目名称	メディア	
専門科目	人間と文化	韓国朝鮮の歴史('15) R ヨーロッパの歴史II('15) TV 日本語概説('15) TV	
	情報	自然言語処理('15) R Webのしくみと応用('15) TV	
	自然と環境	動物の科学('15) TV 植物の科学('15) TV 分子分光学('15) TV 量子と統計の物理('15) TV 宇宙とその進化('15) TV 非ユークリッド幾何と時空('15) TV	
	総合科目	暮らしに役立つバイオサイエンス('15)	TV
		エネルギーと社会('15)	TV
		多様なキャリアを考える('15)	TV
		環境と社会('15)	R
		証券市場と私たちの経済('15)	R
		世界の中の日本('15) TV 進化する情報社会('15) TV	

2015年度新規開設科目一覧(大学院)

プログラム名	科目名称	メディア
生活健康科学	生活ガバナンス研究('15)	R
	家族生活研究('15)	R
	食健康科学('15)	TV
	健康科学('15)	R
	スポーツ・健康医科学('15)	R
人間発達科学	新時代の社会教育('15)	R
	海外の教育改革('15)	R
	発達心理学特論('15)	TV
	現代社会心理学特論('15)	R
	人間発達論特論('15)	R
臨床心理学	投影査定心理学特論('15)	R
	心理・教育統計法特論('15)	R
	学校臨床心理学・地域援助特論('15)	TV
社会経営科学	地域の発展と産業('15)	R
人文学	日本史史料論('15)	R
	国文学研究法('15)	R
情報学	コンピューティング('15)	R
自然環境科学	数理科学('15)	R

特別講義

特別講義では、各学問分野の第一人者が、その学問について深く掘り下げて講義を行っている。

2015年度は新規開設16講義(テレビ6講義、ラジオ

10講義)を含む、全93講義(テレビ44講義、ラジオ49講義)の特別講義を放送した。

2015年度新規開設特別講義

講義題目名	出演講師 *開設当時の肩書	メディア
古代アンデス文明と日本人	放送大学教授 稲村 哲也、東京大学名誉教授 大貫 良夫	TV
薩摩硫黄島の熊野三山と『平家物語』	國學院大学教授 野中 哲照	TV
アクティブシニアのICT活用生活	同志社大学教授 関根 千佳、放送大学教授 廣瀬 洋子	TV
セクシュアル・マイノリティとしての幸せな暮らし～本当は豊かな性のあり方～	東京大学大学院講師 石丸 径一郎	TV
海底に探るエネルギー資源 ～日本海・メタンハイドレート～	明治大学研究・知財戦略機構ガスハイドレート研究所代表 松本 良	TV
ヒマラヤ高所に生きる人々の生活と健康～高所適応とグローバル化による攪乱～	放送大学教授 稲村 哲也、京都大学連携准教授 奥宮 清人	TV
人間発達と初期環境	お茶の水女子大学名誉教授 藤永 保	R
①私、あきらめない!～車いす女優・萩生田千津子の原点～ ②私、舞台を降りない!～車いす女優・萩生田千津子の世界～	女優 萩生田 千津子	R
障害者差別解消法と差別を解消するための研修について	放送大学教授 廣瀬 洋子、国際協力機構国際協力専門員 久野 研二、日本障害者リハビリテーション協会研修課課長 奥平 真砂子	R
オーラル・ヒストリーの課題と展望	放送大学教授 御厨 貴、東京大学先端科学技術研究センター教授 牧原 出	R
「まぜこぜ社会」が世界を変える	女優、一般社団法人Get in touch 理事長 東 ちづる、放送大学教授 井上 洋士	R
患者とともに生きる医療	東京大学名誉教授(三井記念病院院長) 高本 眞一	R
幕末の日本人が見たアメリカ～万延元年遣米使節の異文化理解～	大正大学名誉教授 鈴木 健次	R
ネアンデルタール人はなぜ滅びたのか～交替劇プロジェクトの探究～	高知工科大学特任教授 赤澤 威	R
物理学における対称性とその破れ	高エネルギー加速器研究機構特別栄誉教授 小林 誠	R
漢詩をうたう	和光大学講師 莊 魯迅	R

インターネット配信

2007年度から、在学生用ホームページ(キャンパス・ネットワーク・ホームページ)で、授業科目のインターネット配信(ストリーミング配信)を開始した。配信科目数は年々拡充しており、ラジオ科目ではすべての科目をインターネット配信している。2015年度の配信科目数は、テレビ169科目、ラジオ162科目、特別講義93講義である。

2015年度のインターネット配信科目数

	テレビ	ラジオ
学 部	152	116
大 学 院	17	46
特別講義	36	57
合 計	205	219

寄附科目

放送大学では、様々な機関からの支援を受け、社会の要請に応じた寄附科目を開設している。2015年度には、5科目の寄附科目を放送した。

2015年度開設寄附科目一覧

科目名	寄附団体名	メディア
著作権法概論('06)('10)('14)	日本音楽著作権協会	R
組織運営と内部監査('09)('13)	日本内部監査協会	TV
社会と銀行('10)('14)	全国銀行協会	TV
うま味発見100年 ～その先端科学を探る～(特別講義)	味の素株式会社 ライフサイエンス研究所	TV
薬物治療に貢献する ～病院薬剤師の役割～(特別講義)	日本病院薬剤師会	TV

対面による授業

面接授業(スクーリング)

面接授業は、放送授業とともに放送大学の教育の中心に位置づけられるものであり、全国50カ所の学習センターと7カ所のサテライトスペースで開講している。2015年度は、3,165科目(1学期1,564科目、2学期1,601科目)を開講している。

放送大学の専任教員や地元の大学教員等による対面での授業であり、教員と学生の交流だけでなく、学生同士の出会い、共に学ぶ楽しさを共有できる機会ともなっている。

授業内容は、教養学部という特性に応じた幅広い学問分野に富んでおり、授業形態も通常の講義形式だけでなく、実験やフィールドワークなど多彩な形態で開講している。

また、単独の学習センターのみの開講だけでなく、各地域の特色を生かしたテーマの下でブロック間の学習センターが連携し、リレー形式でも開講している。

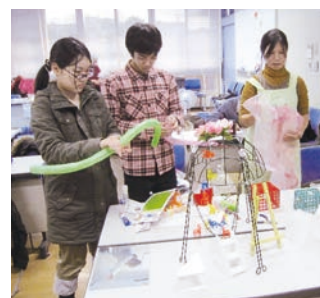
2014年度から、入学生も出願手続きの際、一定の条件を満たせば、入学学期当初から面接授業を登録申請できるよう制度を改正した。

さらに、学生ニーズの高い認定心理士資格取得に必要な「心理学実験科目」を、東京文京学習センターにおいて連日授業を開講する特別開講を開始している。

このように意欲ある学生に、できるだけ多くの学習機会を提供できるよう制度の見直し、学生サービスの向上を常に図っている。



岐阜学習センター「さまざまな食育」



熊本学習センター「表現・鑑賞トレーニング」

オープンコースウェア

オープンコースウェア(OCW)とは「大学で正規に提供された講義とその関連情報のインターネット上での無償公開活動」のことである。

学びたい人すべてがいつでも学べる「開かれた大学教育」を目指して設置された放送大学は、オープンコー

スウェアの理念に賛同し、2009年日本オープンコースウェアコンソーシアムに正会員として参加した。放送大学の放送授業は全部で約300科目あり、2014年度からはほとんどの授業科目について、1番組または全15番組をインターネットで無償公開している。

2015年度オープンコースウェア科目(全15回分を公開)一覧

テレビ授業科目		ラジオ授業科目	
科目名	講師	科目名	講師
ヨーロッパの歴史I('15)	草光 俊雄/基野 尚志	教育学入門('15)	岡崎 友典/永井 聖二
量子と統計の物理('15)	米谷 民明/岸根 順一郎	高齢期の生活と福祉('15)	山田 知子
Webのしくみと応用('15)	森本 容介	日本の教育改革('15)	小川 正人/岩永 雅也
環境の可視化('15)	梅干野 晁/中村 恭志	韓国朝鮮の歴史('15)	吉田 光男
食健康科学('15)	小城 勝相/清水 誠	自然言語処理('15)	黒橋 禎夫
場と時間空間の物理('14)	米谷 民明/岸根 順一郎	健康科学('15)	田城 孝雄/星 旦二
コンピュータのしくみ('14)	岡部 洋一	数理科学('15)	石崎 克也
人的資源管理('14)	原田 順子/奥林 康司	コンピューティング('15)	川合 慧/萩谷 昌己
組織運営と内部監査('13)	齋藤 正章/蟹江 章	哲学への誘い('14)	佐藤 康邦
計算事始め('13)	川合 慧	リスク社会のライフデザイン('14)	宮本 みち子/岩上 真珠
地域社会の教育的再編('12)	岡崎 友典/夏秋 英房	感染症と生体防御('14)	田城 孝雄/北村 聖
市民生活と裁判('12)	來生 新/川島 清嘉	社会心理学('14)	森 津太子
デジタル情報の処理と認識('12)	柳沼 良知/鈴木 一史	福祉政策の課題('14)	大曾根 寛
初歩からの数学('12)	隈部 正博		
特別講義： 日本漫画と文化多様性 ～世界に拡散する絵物語コミュニケーション～【日本語版】	出口 弘		
特別講義： 日本漫画と文化多様性 ～世界に拡散する絵物語コミュニケーション～【英語版】 Japanese Manga & Cultural Diversity ～World Diffusion of Visual Narrative Communication～	Hiroshi Deguchi		
特別講義： 国際ボランティア学への招待	山田 恒夫/川嶋 辰彦 内海 成治/小川 寿美子		

誰もが心地よく学べるために

特別な支援が必要な学生への学習支援

放送大学では、いかなる学生に対しても学習機会が阻害され不利益が生じることのないよう、さまざまな学習支援体制の整備を進めている。例えば、聴覚障がいがある学生への支援としてテレビ授業科目における字幕番組を提供している。2015年度第2学期に字幕を付して放送を行った授業は86科目あり、これは全テレビ科目の約50%にあたる。特別講義についても44科目全てに字幕を付して放送をおこなった。

さらに、単位認定試験時には、ハンディキャップの程度に応じて、別室受験、試験時間の延長等の特別措置を講じている。たとえば、2015年度第2学期単位認定試験における音声出題の対象科目数は131科目で、対象となった学生数は延べ178名であった。また、点字での出題対象科目数は80科目であり、対象となった学生数は延べ115名であった。

ディスカバリーサービスの導入

附属図書館では、学生の学習支援機能を強化するため、2014年9月29日から、ディスカバリーサービスを開始した。

ディスカバリーサービスとは、一つの検索窓から様々な学術情報(学術論文、図書・雑誌、電子ジャーナル等)が一度に検索できる便利なツール。放送大学ディスカバリーサービスを利用すると、放送大学で所蔵している図書や雑誌と電子ブック、電子ジャーナル等を一度に検索できる。放送大学の学生は、検索結果から、電子ブックや電子ジャーナルの本文を読んだり、図書の取寄せ、論文のコピー等を申し込むことができる。学術情報の発見と入手の手段として活用が期待される。

*ディスカバリーサービスの利用は

附属図書館トップページ(<http://lib.ouj.ac.jp/>)から



学術情報を効果的に利用するために

『リブナビプラス 院生のための学術情報探し方ガイド』

附属図書館では、大学院生等が研究を進める上で必要な学術情報を効率的に探すことができるように、教員の協力を得てガイドブックを作成した。

このガイドブックでは、附属図書館で導入している電子ブックや、電子ジャーナルをはじめ、無料で公開されている学術情報関連のWebサイトなども紹介している。学外からのアクセス方法や利用の可否

の説明を充実させ、自宅等の遠隔地からでも活用できるような構成とした。

『リブナビプラス』は、附属図書館ホームページ(<http://lib.ouj.ac.jp/>)で閲覧・ダウンロードができる。



科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)の拡充

放送大学では、2006年度から本学独自の制度として、科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)を導入した。これは本学が指定する特定の授業科目群を履修した学生に対して、ある分野に目的・関心を持ち、そのための学習を体系的に行ったことを証明するものである。その後、2007年に学校教育法が改正され、新たに大学等に「履修証明制度」が規定されたことを機に、2008年度からは、この「履修証明制度」に対応するものとして再スタートしている。

当初10プランで始まった本制度だが、その後、毎年新しいプランを創設し、2015年度は27プランとなっている。

取得認証数は、2006年度223、2007年度1,092、2008年度2,848、2009年度2,552、2010年度2,496、2011年度2,250、2012年度2,552、2013年度2,178、2014年度は2,004となっている。2016年2月29日までの累計取得数は19,782にのぼっており、学生の修学目標の一つとして定着していることがわかる。

2015年度認証プランと認証状取得者数(2016年2月29日現在)

認証プラン名	認証状の名称	認証状取得者数
1 健康福祉指導プラン	健康福祉運動指導者	2,202
2 福祉コーディネータプラン	福祉コーディネータ	2,018
3 社会生活企画プラン	社会生活プランナー	1,066
4 食と健康アドバイザープラン	食と健康アドバイザー	638
5 心理学基礎プラン	心理学基礎	2,579
6 臨床心理学基礎プラン	臨床心理学基礎	1,046
7 社会探究プラン	現代社会の探究	483
8 市民活動支援プラン	市民政策論	502
9 実践経営学プラン	経営の理解	501
10 ものづくりMOTプラン	ものづくりとMOT(技術経営)を学ぶ	278
11 次世代育成支援プラン	次世代育成支援	1,099
12 コミュニティ学習支援プラン	地域生涯学習支援	285
13 異文化コミュニケーションプラン	異文化理解支援	853
14 アジア研究プラン	アジア研究	347
15 日本の文化・社会探究プラン	日本の文化と社会	463
16 宇宙・地球科学プラン	宇宙・地球科学	516
17 生命科学プラン	生命人間科学	727
18 環境科学プラン	環境科学の基礎	613
19 社会数学プラン	数学と社会	295
20 エネルギー・環境研究プラン	エネルギー環境政策論	255
21 芸術系博物館プラン	芸術系博物館活動支援	986
22 歴史系博物館プラン	歴史系博物館活動支援	1,166
23 自然系博物館プラン	自然系博物館活動支援	407
24 工学基礎プラン	工学基礎	235
25 人にやさしいメディアデザインプラン	人にやさしいメディアのデザインプラン	35
26 計算機科学基礎プラン	計算機科学の基礎	63
27 地域貢献リーダー人材育成プラン	地域貢献リーダー人材	124
合計		19,782

他機関への教育支援

単位互換の取り組み

本学は、全国の教育機関と積極的に単位互換協定を進めている。2015年度には、新たに5校の大学と単位互換協定を締結し、合計385校となった。

2015年度に締結した単位互換協定締結校

大学名
筑波学院大学
山形県立米沢栄養大学
十文字学園女子大学
東京未来大学
京都美術工芸大学

専修学校との連携協力

本学では、専修学校専門課程と連携協力を実施し、専修学校専門課程に在籍しながら学士(教養)の学位を取得できる制度を設けている。

2015年度も新たに2校の専修学校と連携協力の覚書を締結し、合計で31校となった。

2015年度に締結した連携協力校(専修学校)

学校名
茨城県立中央看護専門学校
篠田看護専門学校

キャリアアップを支援する

資格取得

放送大学で修得した単位は、以下の資格取得のために活用することができる。

- 看護師国家試験受験資格
- 教員免許状の上位・他教科・隣接校種の免許状
- 学校図書館司書教諭資格
- 特別支援学校教諭二種免許状
(知的障害者教育領域・肢体不自由者教育領域)
- 養護教諭免許状
- 栄養教諭免許状
- 学芸員資格
- 社会教育主事任用資格
- 社会福祉主事任用資格
- 介護教員講習会の対応科目

学芸員資格に関しては、博物館法施行規則改正により、2012年度から9科目19単位の修得が必要となったが、放送大学では、博物館実習を除く8科目(うち2科目は2013年度から開講)を開講して対応することとなった。

博物館実習についても、2012年度からは、岐阜女子大学と、2016年度からは新たに東京情報大学との連携により博物館実習の開講が実現する。これは、一定の要件を満たした放送大学生がそれぞれの大学で博物館実習を受講できるものであり、2015年度には全国から15名の学生が受講した。

また、2009年度からの教員免許更新講習制の実施に伴い、放送大学でも教員免許更新講習を実施している。本学の特性を活かし、テレビ・ラジオ及びインターネットを利用し、全国どこでも講習の受講が可能となっている。この講習は、毎年2回(夏期及び冬期)実施することとしており、2015年度の講習では、約9,600人の受講者が、延べ約34,700科目を受講した。

学生の研究成果の公開

放送大学(学部)では、学生が指導教員から直接、指導を受ける機会を提供するため、卒業研究を開設しており、毎年多くの学生が履修している。そこで2007年度より、卒業研究の履修を将来希望する学生への情報提供として、卒業研究のテーマ一覧と、研究成果である卒業研究報告書の公開を、キャンパスネットワークホームページで開始した。2015年度は、2014年度の「卒業研究報告書テーマ一覧」と「卒業研究報告書(全文)」26点を公開した。

大学院については、修士論文を基にした学生論文集「Open Forum(放送大学大学院教育研究成果報告)」を2005年3月より刊行している。在学生や今後の入学

者への情報提供のほか、大学から社会に向けた情報発信、教員の自己点検・自己評価、修士課程の教育研究内容が具体的に見える資料として利用されることを目的としている。2016年3月刊行の第12号には2014年度修了生全357名の研究成果の中から、論文12点、研究ノート41点が掲載されている。



Open Forum 12号

より質の高い教育を目指して

じっくり3年かけて授業科目を作成

本学では毎年、何十もの放送授業を新たに開設している。1つの放送授業を開設したら、4年から6年程度で内容を見直しをするからである。閉講して別の放送授業を新設する場合もあれば、既存の内容に新しい情報を加えて改訂する場合もある。そのため、放送授業を担当する講師は、次はどのような内容にするか、どの講師と一緒に教材をつくるかを考えていかなければならない。

下の図のように、授業開始（開講）の3年ほど前から構想を練りはじめ、「このような科目をつくりたい」と大学側に提案する。科目開設が決定すると、「主任講師会議」を開いてスケジュールの確認、編集者等との顔合わせをする。

印刷教材は、授業番組の回数に合わせて15章で構成されており、担当する講師が分担して執筆する。主な

内容や分担を決め、締切などのスケジュールを確認したら、原稿執筆に取りかかる。原稿の締切は、授業開始のおよそ1年半前。

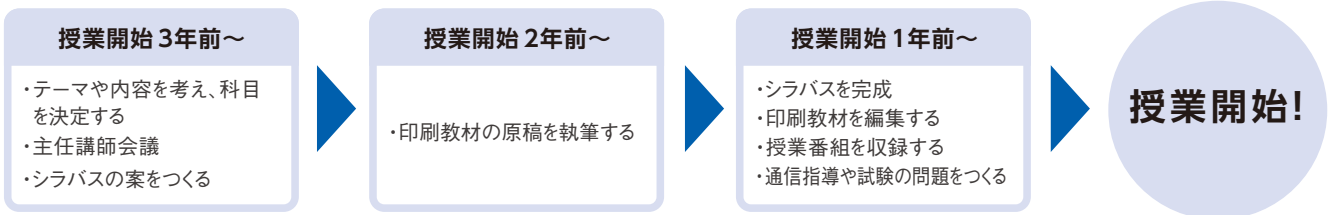


主任講師会議

開講の1年前から、授業番組づくりに入る。スタッフの多くは、教育番組等を制作してきたベテラン。プロデューサーやディレクターと打ち合わせをし、どのような番組構成にするかを決めていく。そして、必要な素材を集め、台本をもとにスタジオでの収録に臨む。

このように約3年間をかけ1つの授業科目は作成される。

授業科目づくりの主な流れ



FD(Faculty Development)の取り組み

FD(Faculty Development)の一環として、2016年3月9日(水)にFD委員会主催で講演会を開催した。

今年度は、障害のある学生への対応をテーマとして本学教員2名による講演を行った。

本学臨床心理プログラム教授による講演に加え、東京文京学習センター所長による学習センターでの事例紹介を交えながら、参加者との質疑応答を行い、活発な議論が行われた。



ICTを活用した教育の支援

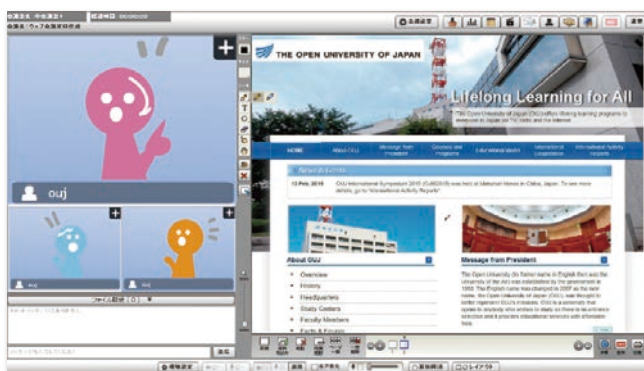
遠隔会議サービスによる修士課程ゼミ

放送大学の授業には放送授業と面接授業が存在するが、一方で、卒業研究や修士課程・博士後期課程での研究指導（論文執筆指導）も行われている。

このような遠隔の研究指導をうける学生のために、ウェブ会議サービスを整備している。このサービスは、ASP（アプリケーション・サービス・プロバイダ）方式で（株）ブイキューブと契約をしている。これは、学内にテレビ会議システム用のサーバを保有・運営するのではなく、ウェブ会議用のサーバを利用する権利を契約によって取得する方式である。放送大学のように、利用が週末に集中する環境では、専門的な知識や保守を学内で行う必要がないASP方式のメリットが高い。

実際には、遠隔による研究指導やゼミを行うことが決まり次第、専任教員が実施日と時間を定めて利用申請を行う。その後、事業者のサーバを利用するために必要なURLと「ゼミID」が発行される。ゼミの参加者はパソコンのウェブブラウザで指定されたURLを開いて

「ゼミID」を入力すると、パソコン内蔵（あるいは外付）のビデオカメラとマイクロフォンからの映像と音声、ウェブ会議サービスの中に投影される。参加者のパソコンに専用のソフトウェアをインストールしなくても、気軽に参加できるというメリットがある。また、タブレットで使う場合には、このウェブ会議サービス専用のアプリがあり、パソコンよりも簡単な手順で利用可能となっている。



ウェブ会議サービスの画面

ソーシャル・ネットワーキング・サービスを利用した交流

放送授業での学習は、自宅や学習センターで、ひとりで学ぶことが多く、従来は、ともに学ぶ「学友」は、学習センターで出会うしかない状態であった。

だが、近年、インターネットの利用者が増大し、また、インターネットに接続して利用できる機器が、従来のパソコンのみならず、タブレットや、スマートフォンなどにも広がった。これらの機器は、簡単に取り扱うことができ、また、導入費用も下がっている。そのため、多くの人が、インターネットを利用した交流によって、意見交換をしたり、精神的に癒されたりすることが可能になった。特に、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）を利用した交流が増加しつつある。

放送大学は、無料オンライン講座を提供する「日本オープンオンライン教育推進協議会（JMOOC）」に参加している。そこで、授業映像を提供するために、世界最大のSNSとして知られるフェイスブックに「放送大学JMOOCページ」を設けている。

また、放送大学のコース・学習センターの一部が、ツイッターやフェイスブックにページを開設し、情報公開を行っている。さらに、岡部学長、および、一部の教員がツイッターを利用して放送大学に興味を持つ一般の人や、在学生相互の交流に加わっている。



岡部学長のツイッター

放送大学における研究

特別研究と外部資金による研究

放送大学では、専任教員が数多くのテーマのもと積極的に研究を行い、その成果を世に送り出している。研究の支援・推進のために、特に放送大学の発展に寄与する教育・研究プロジェクトや学術上あるいは大学運営に貢献する研究に対して特別研究費の制度を設け、プロジェクト支援として、また、教員個人の研究助成として資

金面での支援をしている。さらに、放送大学教育振興会など他からの助成基金も積極的に得て研究をすすめている。2015年度に特別研究として、また、放送大学教育振興会・日本学術振興会の助成で実施した研究テーマは以下のとおりである。

2015年度学長裁量経費Ⅰ(プロジェクト支援)決定者一覧

所属	職名	氏名	研究課題名
生活と福祉	教授	山田 知子	女性の生活問題の実態と解決のための新たな拠点づくりー放送大学と男女平等センターのコラボレーションの可能性ー
	教授	大曾根 寛	保育士・幼稚園教諭の生涯学習のための試行的プロジェクトー障害児保育に焦点を当ててー
	教授	井上 洋士	放送大学におけるダイバーシティ教育及び体制づくりの検討
心理と教育	教授	森 津太子	「心理学実験」の面接授業に使用する実験プログラム、およびその基礎となるシステムの再整備
人間と文化	教授	稲村 哲也	博物館関連科目の充実・OL化、及び学芸員取得授与に向けた予備調査
自然と環境	教授	隈部 正博	放送授業科目、線型代数学(17)の補助教材の作成
	准教授	安池 智一	放送教材およびオンライン講義製作を支援するアーカイブの構築
情報	教授	近藤 智嗣	教育手法の改善に向けたハイブリッドキャスト・コンテンツの試作と評価
	准教授	秋光 淳生	生涯に渡る学修記録活用に向けたシステム間連携支援システムの試作
図書館	館長	吉田 光男	幕末・明治の古写真の画像のデジタル化と管理データベースの構築
放送部	部長	沼田 尚道	テレビ特別講義「森鷗外「青年」を訪ねる」を通じた地域連携の展開とBSデジタル放送普及拡大方策
学務部	主任	佐藤 宏光	若年学生の学習サポートとキャリア支援に関するしくみ及び授業科目の開発

2015年度学長裁量経費Ⅱ(研究助成)決定者一覧

所属	職名	氏名	研究課題名
情報	教授	仁科 エミ	ハイパーニックエフェクトを応用した情報医療創生のためのシステムと音源の研究開発
	准教授	浅井 紀久夫	ホログラムを用いた拡張現実感のための校正手法

放送大学教育振興会助成による研究:多様なメディアの研究開発、教材及びシステム等の研究開発助成

所 属	職 名	氏 名	研究課題名
社会と産業	教 授	坂井 素思	放送大学印刷教材等の教材アーカイブ化とアーカイブの大学院教育への応用
生活と福祉	准教授	戸ヶ里 泰典	反転授業方式による看護・保健系大学院生のための統計解析学習プログラム構築の試み
心理と教育	教 授	森 津太子	心理学実験の面接授業に関する授業担当者支援サイトの構築
情 報	准教授	高橋 秀明	遠隔教授学習過程の記述:放送大学オンライン授業を対象に
	准教授	秋光 淳生	放送大学型アクティブ・ラーニングのための教材開発
	准教授	辻 靖彦	複数教員によるピアノ実技の指導内容に基づくピアノ技能のオンライン学習教材の開発
	准教授	鈴木 一史	放送大学オンライン科目の携帯端末視聴システムに関する研究

放送大学教育振興会助成による研究:教材の海外への普及・協力事業助成、国際交流の促進事業助成

所 属	職 名	氏 名	研究課題名
社会と産業	教 授	河合 明宣	放送大学のODL(公開遠隔学習)経験移転を軸にしたブータン王立大学セルブツェ・カレッジとの国際交流プロジェクト
情 報	教 授	苑 復傑	チベット・内蒙古地域における遠隔教育に関する実証研究—放送大学との交流と連携可能性について—
人間と文化	教 授	稲村 哲也	遊牧社会における遠隔教育の試行と研究—モンゴルを中心に

放送大学教育振興会助成による研究:機関特別推進研究等に係る助成

所 属	職 名	氏 名	研究課題名
	副学長	來生 新	放送大学の情報アクセスビリティの向上及び学習支援の充実等について

日本学術振興会の科学研究費助成事業による研究(氏名は代表者)

所 属	職 名	氏 名	研究種目	研究課題名
情 報	教授	山田 恒夫	基盤A	生涯学習基盤としての大規模オンラインコース(MOC)の構築と運用に関する研究
	副学長	宮本 みち子	基盤B	若者期の生活保障の構築に向けた国際比較研究～社会的に排除される若者層を中心に～
生活と福祉	教授	大曾根 寛	基盤B	障害をめぐるEUの政策と各国の相互作用に関する国際比較研究—社会的包摂に向けて—
	准教授	戸ヶ里 泰典	基盤B	全国代表サンプルによるストレス対処力SOCを規定する社会的要因に関する実証研究
心理と教育	教授	小川 正人	基盤B	近年の教育行政関係法制の改正と地方教育行政の変化に関する調査研究
	教授	田中 統治	基盤B	アジア比較に基づく基礎教育課程の「一貫制」に関する理論的・実践的研究
社会と産業	教授	河合 明宣	基盤B	インド経済圏内の食品流通システムの展開方向と日本農産物の輸出可能性の究明
人間と文化	教授	内堀 基光	基盤B	「古い文化」の形成と機能に関する比較に基づく人類学的研究
情 報	教授	加藤 浩	基盤B	多人数講義におけるアクティブ・ラーニングを支援するグループウェアの開発
	教授	近藤 智嗣	基盤B	コンピュータビジョンと行動分析による複合現実感展示システムのインテリジェント化
	准教授	浅井 紀久夫	基盤B	技能伝承のための触力覚分散協調訓練の生体信号適応制御による円滑化
自然と環境	教授	岸根 順一郎	基盤B	カイラル結晶構造に宿る新磁性機能の探索
生活と福祉	教授	小城 勝相	基盤C	酸化ストレスの生体影響に基づく新規機能性食品の開拓
	教授	奈良 由美子	基盤C	日本社会にあった生活リスクリテラシーの視座確立と実践モデルの開発
	准教授	川原 靖弘	基盤C	高齢者の介護予防に向けた生活空間評価方法の研究
心理と教育	教授	森 津太子	基盤C	“目”という社会的手がかりが向社会的行動に与える影響
	准教授	小林 真理子	基盤C	がん患者の子どもと家族への支援リソースの開発に関する研究
社会と産業	教授	道幸 哲也	基盤C	個別労働条件の集团的性格・職場のルール決定プロセスの研究・集団法の見直しを視野に
人間と文化	教授	宮下 志朗	基盤C	「文芸の共和国」としてのプランタン＝モレトゥス工房の総合的研究—第三期
	教授	内堀 基光	基盤C	家族史から接近するサラワク・イバン社会におけるモダニティの形成

日本学術振興会の科学研究費助成事業による研究(氏名は代表者)

所属	職名	氏名	研究種目	研究課題名
情報	教授	苑 復傑	基盤C	中国高等教育の「国際合作」の構造と機能
	教授	黒須 正明	基盤C	製品・サービスの意味性を明らかにするビジネスマイクロエスノグラフィ手法の開発
	教授	近藤 喜美夫	基盤C	防災意志決定訓練のための臨場感提示環境とコンセプトマップによるシナリオ作成支援
	教授	中谷 多哉子	基盤C	漸進型要求獲得のための計画と観測に関する手法および支援環境の開発
	准教授	秋光 淳生	基盤C	社会人の自発的協同学習を誘発するオンライン学習環境の開発
	准教授	芝崎 順司	基盤C	映像視聴反応可視化システムの開発と双方向型・協調学習利用に関する研究
自然と環境	教授	加藤 和弘	基盤C	都市緑地内のバードサンクチュアリは鳥類の生息場所として寄与するか
	教授	二河 成男	基盤C	昆虫類核ゲノムに転移した細菌由来遺伝子群の探索とその進化的役割
	教授	松井 哲男	基盤C	物質の極限状態の理論的研究
	准教授	大森 聡一	基盤C	単鉱物地質温度圧力計体系の確立
	准教授	安池 智一	基盤C	電子の集団運動を利用した高感度微視的的化学環境プローブ手法の理論的開拓
奈良SC	所長	三野 博司	基盤C	アルペール・カミュ研究—「暴力」に抗する文学と思想
和歌山SC	所長	平田 健正	基盤C	グリーン・レメディエーション手法導入による土壌地下水汚染対策の推進に関する研究
生活と福祉	教授	井出 訓	挑戦萌芽	認知症高齢者を介護する家族介護者の離職に関する現状分析とサポートシステムの構築
	准教授	戸ヶ里 泰典	挑戦萌芽	慢性疾患患者を対象としたストレス対処力向上プログラムの構築
情報	教授	加藤 浩	挑戦萌芽	共通教育情報メタデータによる学習ビックデータの論理的統合と利活用システムの構築
	教授	柳沼 良知	挑戦萌芽	ユーザ適応型オンライン教科書の自動生成に関する研究
人間と文化	准教授	井口 篤	若手B	ラテン語宗教テキスト Stimulus Amoris(c. 1300)の校訂
情報	准教授	辻 靖彦	若手B	個人と組織による授業改善を支援する分散型ラーニング・デザイン作成支援環境の構築

放送大学研究年報

『放送大学研究年報』は放送大学の専任教員が日ごろの研究成果を発表する場である。2015年版を2016年3月に発行した。

2015年度放送大学研究年報(第33号)著者及び論題一覧

著者	論題
山田 知子	地域包括ケアシステムで複雑な生活問題を抱える高齢者の生活支援は可能なのか—精神的な障がいをもつ養護老人ホーム入居者の生活層から—
戸ヶ里 泰典・米倉 佑貴・井出 訓	放送大学の保健・看護系の修士課程大学院生における統計解析の学習—院生のニーズ調査と学習プログラムの構築の試み
戸ヶ里 泰典	sense of coherenceを規定する思春期及び成人期の社会的要因—日本人成人男女における2年間の追跡調査から—
蘇 雲山・河合 明宣	中国におけるトキ保全事業の新たな進展—再導入によるトキ分布域拡大と社会・自然環境課題を中心に—
原田 順子	1940年代後半から1990年代における日本の大企業男性正社員の賃金制度
稲村 哲也・大貫 良夫・森下 矢須之野内 セサル 良郎・阪根 博・尾塩 尚	古代アンデス文明と日本人—放送大学特別講義と展示会
黒須 正明	人工物進化学から考える意味性と審美性—箸を例として
石崎 克也	複素領域における差分方程式と微分方程式の相互関係について
吉岡 一男・田中 修・中村 仁	2つのおうし座RV型変光星、いっかくじゅう座U星とおうし座RV星の化学組成の決定
鹿島 正裕	「民主化の波」の成功と失敗—東欧諸国とアラブ諸国の比較試論
上野 達彦	帝政期ロシア時代の刑法学者・タガンツエフについて
島内 裕子	『徒然草絵抄』の注釈態度



放送大学研究年報 第33号

研究成果の発表・普及【書籍】

放送大学の専任教員・学習センター所長は、研究成果を発表し共有・普及するために、印刷教材以外にも、多数の書籍を編集・執筆している。また辞書・辞典の編纂も行っている。これらの書籍は市販されていて購入することが可能である。また、放送大学や公共の図書館な

どに所蔵されているので、閲覧可能である。放送授業や印刷教材の内容とは異なり、より専門的かつ先進的な内容を含んでいるので、各教員が日々取り組んでいる研究テーマや研究活動・成果に深く触れる絶好の機会となるので積極的に手にとってみて欲しい。

専攻・氏名	書籍名・辞典名	出版社
副学長	宮本 みち子	すべての若者が生きられる未来を：家族・教育・仕事からの排除に抗して（編著） 岩波書店
	宮本 みち子	下層化する女性たち：労働と家庭からの排除と貧困（小杉礼子・宮本みち子編著） 勁草書房
	宮本 みち子	単身社会のゆくえと親密圏の再構成 若林靖永・樋口恵子編『2050年超高齢社会のコミュニティ構想』第4章 岩波書店
生活と福祉	石丸 昌彦	『パラダイム・ロスト 一心のスティグマ克服、その理論と実践』ヒーザー・スチュアート、 フリオ・アルボレダ・フロレス、ノーマン・サルトリウス（著）、石丸昌彦（監訳） 中央法規出版
	関根 紀子	平成26年度 体力・運動能力調査報告書（内藤久士，廣津信義，関根紀子他） スポーツ庁
心理と教育	小川 正人	新基本法コンメンタール 教育関係法（共編著） 日本評論社
	小川 正人	新訂版 ガイドブック 教育法（共編著） 三省堂
	小川 正人	解説 教育六法（共編著） 三省堂
社会と産業	梅干野 晁	オプトロニクス デジタル版
人間と文化	魚住 孝至	新訳 弓と禅 角川ソフィア文庫
	魚住 孝至	連続講義 現代日本の四つの危機—哲学からの挑戦（共著） 講談社選書メチエ
	魚住 孝至	「心身／身心」と環境の哲学—東アジアの伝統思想を媒介に考える—（共著） 汲古書院
	内堀 基光	『他者：人類社会の進化』 河合香史編（共著） 所収論文 内堀基光 「他者としての精霊：イバン民族誌から」 京都大学学術出版会
	島内 裕子	絵巻で見る・読む 徒然草（監修・共著） 朝日新聞出版社
	島内 裕子	吉田健一（日本文学全集・分担執筆） 河出書房新社
	島内 裕子	和歌文学大辞典（分担執筆） 古典ライブラリー
	杉森 哲也	大学の日本史—教養から考える歴史へ—3 近世（編著） 山川出版社
	滝浦 真人	ゴフマンと言語研究 渡辺克典・中河伸俊編『触発するゴフマン』pp.218-229 新曜社
	滝浦 真人	語用論がかかわる次元と日本語—初めに問主観性があった、 と云ってはならないか？—加藤重広編『日本語語用論フォーラム1』pp.1-25 ひつじ書房
情報	宮下 志朗	フランス・ルネサンス文学集2——— 笑いと涙と（編訳） 白水社
	宮下 志朗	マルセル・シュオップ全集（分担訳） 国書刊行会
情報	黒須 正明	研究者の省察 近代科学社
自然と環境	大森 聡一	宇宙生命論（2015）第2章「地球史と生物進化」2.3節「地球生命史から 宇宙生物学の体系化へ」（p.68-81）、共著、海部宣男、星元紀、丸山茂徳編 東京大学出版会
臨床心理プログラム	小川 俊樹	1.1 臨床心理学とは何か 1.5 おわりに 杉江征・青木佐奈枝（編）「スタンダード臨床心理学」 サイエンス社
	小川 俊樹	6.投影法（ロールシャッハ・テスト等） 臨床精神医学44巻増刊号「特集 / 精神科臨床評価マニュアル[2016年版]」
京都学習センター	江崎 信芳	Selenium - Its Molecular Biology and Role in Human Health, 4th Edition（共著） Dolph L. Hatfield, Ulrich Schweizer, Petra Tsuji, Vadim Gladyshev（編集者） Chapter 10 Mechanism, structure and biological role of selenocysteine lyase（執筆担当） Springer
大阪学習センター	西田 正吾	ヒューマンコンピューターインタラクション（改訂2版） 岡田謙一、西田正吾、葛岡英明、仲谷美江、塩澤秀和（共著） オーム社

研究成果の発表・普及【論文】

大学教員の教育の原動力になるものは専門の研究である。ここから湧き出る問題を追い求める力が、忍耐力を高め、新たな発見を生み出す。放送大学の専任教

員・学習センター所長は、各分野・領域における専門家である。研究論文は審査を受け学術雑誌から世に放たれる。2015年度に発表された、学術論文を紹介する。

専攻・氏名	論文名	発表(雑誌ほか)	
副学長	宮本 みち子 若年無業者と地域若者サポートステーション事業 若者の移行期政策と社会学の可能性—「フリーター」「ニート」から「社会的排除」へ—	『季刊社会保障研究』Vol.51 Summer2015 No.1 『社会学評論』66(2)	
生活と福祉	小城 勝相 Strong inhibition of secretory sphingomyelinase by catechins, particularly by (-)-epicatechin 3-O-gallate and (-)-3'-O-methylgallicocatechin 3-O-gallate. K. Kobayashi, Y. Ishizaki, S. Kojo, and H. Kikuzaki	J. Nutr. Sci. Vitaminol., 62, in press (2016).	
	前田弘美, 関根紀子, 脊髄小脳変性症患者における移動能力の判別	理学療法さが, 2(1):27-31, 2016	
	関根 紀子 Repeated exposure to heat stress results in a diaphragm phenotype that resists ventilator-induced diaphragm dysfunction. Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, Kakigi R, Tsuzuki T, Sugiura T, Powers SK, Naito H. Whey peptide ingestion suppresses body fat accumulation in senescence-accelerated mouse prone 6 (SAMP6). Ichinoseki-Sekine N, Kakigi R, Miura S, Naito H.	J Appl Physiol (1985). 119(9):1023-31, 2015. Eur J Nutr. 54(4):551-6, 2015.	
心理と教育	小川 正人 2014年地教行法改正と「新」教育委員会をめぐる課題 —新教育長と教育委員会の関係を中心に—	日本教育行政学会編「地方教育行政法の改定と教育ガバナンス」三学出版 2015年5月 88頁~103頁	
社会と産業	岡田 光正 浚渫土を利用した藻場生育基盤造成による藻場生態系の長期評価 杉本憲司、中野陽一、土田孝、岡田光正	土木学会論文集B2(海洋工学) 71(2) 1447-1452 2015年11月	
	梅干野 晃 高田真人、梅干野晃:夏季熱放射環境にみる江戸町屋敷の屋外生活空間の特徴と居住者の滞在空間の評価—江戸時代後期の江戸町人地における居住者の生活行動を考慮した夏季熱環境の評価 その4— 清野友規、浅輪貴史、梅干野晃、清水克哉:都市緑化樹木を対象とした大型重量計による単木蒸散量の計測と樹木の形態的・生理的特徴に基づく分析 平山由佳理、太田勇、梅干野晃:親水・吸水性塗膜を施した表面濡れ性が高いパッシブクーリングルーバーシステムの開発と屋外実験による基本性能の把握 浅輪貴史、藤原邦彦、梅干野晃、清水克哉:ケヤキ樹冠の対流熱伝達率	日本建築学会環境系論文集、Vol.80、No.713,pp.599-608,2015.7 日本建築学会環境系論文集、Vol.80、No.713,pp.599-608,2015.7 日本ヒートアイランド学会論文集、Vol.10,pp.24-34,2015 日本建築学会環境系論文集、Vol.81、No.720, pp. 235-245,2016.2	
	魚住 孝至 佐藤 良明 大西 仁 加藤 浩 黒須 正明	「オイゲン・ヘリゲル『弓と禪』における修行」 人間 - 機械 - 言語 - 社会 山本由紀子・仁科エミ・大西仁 協和感研究の動向と課題 —聴覚的協和感を中心として— 霜田一将、植田啓文、木下峻一、加藤浩:大規模災害時におけるDTN技術を用いた複合的な船陸間災害情報共有ネットワークの提案と評価—可搬型DTN基地局による検討— UXの概念	宗教哲学学会編『宗教哲学研究』33号p29~42 『専修大学外国語教育論集』第44号(2016年3月)、pp. 3-23 認知科学、vol.22, no.2, pp.282-296, 2015/06 日本航海学会論文集、132 pp.71-77 (2015.7.1) 情報処理学会デジタルプラクティス 2015.10
	児玉 晴男 中谷 多哉子 森本 容介	オンライン授業のコンテンツ開発とそのプラットフォーム (児玉晴男、鈴木一史、柳沼良知) 知的財産の登録と文化遺産の登録の法的効果「マイクロソフト知的財産研究助成成果論文集」 科学研究の不正行為に関する利益相反と研究倫理(日本学術会議協力学術研究団体査読付き論文) 岡野道太郎、中谷多哉子、「要求のヌケ・モレを防ぐためのゴール分解方法の提案と実験」 ELECOAにおける教材オブジェクト・プラットフォーム間インタフェースの設計と実装(森本容介、仲林清、芝崎順司)	情報処理学会 電子情報通信学会情報・システムソサイエティおよびヒューマンコミュニケーショングループ、第4分冊 公益信託 マイクロソフト知的財産研究助成基金 運営委員会 企業法學研究、Vol.4、No.1 ソフトウェアシンポジウム2015in和歌山、pp.124-133, 2015 電子情報通信学会論文誌、Vol.J98-D、No.6
自然と環境	加藤 和弘 加藤和弘・吉田亮一郎・高橋俊守・笠原里恵・一ノ瀬友博(2015) 都市および近郊の小規模樹林地で記録された鳥類の種組成に影響する要因。 Kishi S & Katoh K. (2015) Notes on nighttime visits to male flowers of Vitis ficifolia var. izuinsularis on Miyake Island by oedemerid beetles.	ランドスケープ研究論文集 78, 671-676. Entomological News 125, 186-190. DOI: 10.3157/021.125.0306	
	隈部 正博	隈部正博、鈴木登志雄、Resource-bounded martingales and computable Dowd-type generic sets, Information and Computation 242 Elsevier, pp227-248, 2015. 査読有り	
	橋本 健朗	Toshihiko Shimizu, Shun Manita, Shunpei Yoshikawa, Kenro Hashimoto, Mitsuhiro Miyazaki and Masaaki Fujii, The mechanism of excited-state proton transfer in 1-naphthol-piperidine clusters Toshihiko Shimizu, Shunpei Yoshikawa, Kenro Hashimoto, Mitsuhiro Miyazaki and Masaaki Fujii, Theoretical study on the size-dependence of excited state proton transfer in 1-naphthol-ammonia Clusters Mitsuhiro Miyazaki, Ryuhei Ohara, Kota Daigoku, Kenro Hashimoto, Jonathan R. Woodward, Claude Dedonder, Christophe Jouvét and Masaaki Fujii, Electron-Proton Decoupling in Excited State Hydrogen Atom Transfer, Angewandte Chemie	Phys. Chem. Chem. Phys., 17, 25393-25402(2015) J. Phys. Chem. B, 119, 2415-2424 (2015) Int. Ed., 2015, 54, 15089-15093
	安池 智一	"Raman scattering enhanced by plasmonic clusters and its application to single-molecule imaging" AIP Conference Proceedings 1702, 090047 (2015)	
臨床心理プログラム	小川 俊樹 Iwasa, K. & Ogawa, T. (2016). Psychological basis of the relationship between the Rorschach texture responses and adult attachment: A meditational role of accessibility of tactile knowledge. Journal of Personality Assessment, DOI:10.1080/00223891.2015.1099540 (USA)		
大阪学習センター	西田 正吾 "実時間と動画時間から面白い動画コメントを抽出する手法の提案(早川卓也、土方嘉徳、西田正吾)" "フロアインタラクションに向けたウェアラブル手足入力インタフェース(佐藤文宏、松田大輝、酒田信親、西田正吾)"	情報処理学会論文誌 Vol.56, No.9, pp.1929-1942, 2015 日本バーチャルリアリティ学会論文誌 Vol.20, No.2, pp.163-171, 2015	
香川学習センター	大平 文和 Fast protein detection from raw blood by size-exclusion SPR sensing, K. Terao, S. Hiramatsu, T. Suzuki, H. Takao, F. Shimokawa, F. Oohira Development of magnetically driven micro valve using SU-8/Fe composite, J. Suzuki, K. Terao, H. Takao, F. Shimokawa, F. Oohira, T. Suzuki Characterization of optically-driven microstructures for manipulating single DNA molecules under a fluorescence microscope, K. Terao, C. Masuda, R. Inukai, M. Gel, H. Oana, M. Washizu, T. Suzuki, H. Takao, F. Shimokawa, F. Oohira	Analytical Methods, 7, 6483-6488 (2015) Journal of the Japan Society of Applied Electromagnetics and Mechanics, 23(2), 407-413 (2015) IET Nanobiotechnology, 10.1049/iet-nbt.2015.0036 (2015)	

国際交流の取り組み

2015年度は、放送大学国際シンポジウムの開催や本学が加盟する国際組織の会議への参加のほか、海外の国際交流協定の締結校と共同研究の発表のため講演会を開催するなど連携強化を図った。また、海外の学会での研究発表のため教員派遣を行ったほか、協定校以外の海外の遠隔教育機関からも教育システム等に関する情報交換を行うために多数の来訪があり、国際交流に積極的に取り組んだ一年間となった。

平成27年度 東京国際交流館 国際シンポジウムの開催

2015年11月27日、独立行政法人 日本学生支援機構からの助成金(公益財団法人 中島記念国際交流財団 助成事業)を受け、共催で東京国際交流館にて国際シンポジウムを開催した。「21世紀型学習への多角的な評価のあり方～自ら学ぶ力をつけるために～」をテーマに世界各国より5名の有識者を招き、講演及びパネルディスカッションを行った。

オンライン講座やオンライン教材等、インターネット上に学習資源が豊富にあり、時間や場所に捉われない学習が日常的になっている。この状況において、学習の評価をどのように行うのか、授業外で学んだことをどのように認定するの



か、が大きな課題となってきている。また、学びを支援するためのフィードバックという観点からも評価が重要視されてきている。学習管理システム(LMS)を用いた教育では、様々な形で学習を見える化することができるとともに、時間的・地理的な壁を越えた教育者と学習者のインタラクションも可能となってくる。本シンポジウムでは、真の学びを支援し認定するための評価のあり方とその可能性を多面的に取り上げた。



第29回AAOU年次大会への参加

2015年11月30日から12月2日まで、アジア公開大学連合(AAOU=Asian Association of Open Universities)の第29回年次大会がマレーシア公開大学主催で行われた。“New Frontiers in Open and Distance Learning (ODL)”をメインテーマで開催され、本学からは岡部学長がパネルディスカッションでの講演で、本学の現状とオンライン授業の取り組みを紹介し、パラレルセッション(一般講演)では、二河教授が担当科目の授業評価結果を分析し報告した。森本准教授は、本学が提供するUPO-NETを、主に技術的な視点から紹介した。



岡部学長の講演

講演会「ICTで実現するブータンのGNH社会」の開催

2016年2月5日、国際交流協定の締結校であるブータン王立大学シェルブツェ・カレッジ (SCRUB) より学長ほか2名の研究者を招き、東京文京学習センターにて講演会が開催された。三輪教授の総合司会により、3年間に渡る放送大学とシェルブツェ・カレッジとのブータンでの遠隔教育の実現に向けてのプロジェクトの成果発表を含めた講演があった。Wangdi学長が「高等教育におけるGNH」と題して、ブータンの高等教育がGNH社会に果たす役割について講演したほか、他の研究者からも村落の発展におけるICTの役割についてなどの講演があった。河合教授は、「GNH社会に向けた公開遠隔教育」と題して、これまでの活動を振り返るとともに今

後の取り組みについて語った。放送大学とシェルブツェ・カレッジ双方にとって意義のある講演会となった。

※「GNH」=国民総幸福。ブータンはこの理念を国づくりの基本に掲げている。



放送大学教育振興会助成金プロジェクト
講演会：ICTで実現するブータンのGNH社会
ICT-enhanced GNH Society in Bhutan
主催：放送大学ブータン研究会
後援：ブータンイメージアム in 福井

放送大学「ブータン遠隔教育プロジェクト」は、国際交流協定を締結しており、日本の研究者がブータンに赴き、ICTによる遠隔教育の調査研究、GNH（国民総幸福）の理念を踏まえたブータンの情報通信環境と高等教育の発展にご尽力します。

＜日程＞2016年2月5日（金）14:00-17:00
＜会場＞放送大学東京文京学習センター多目的講義室1（地下1階）

プログラム	総合司会：三輪 眞木子（放送大学教授）
13:30 受付開始 (Registration Open)	
14:00-14:15 歓迎あいさつ (Welcome Address)	眞木 眞木子 (放送大学国際交流委員長)
14:15-14:30 開会の辞 (Opening Address)	河部 洋一 (放送大学学長)
14:30-15:10 高等教育におけるGNH (Gross National Happiness in Higher Education)	Yabering Wangdi (シェルブツェカレッジ教授)
15:10-15:40 高等教育におけるICTとGNH (ICT in Higher Education and GNH)	Chinai Dorji (シェルブツェカレッジICT技術員)
15:40-15:50 休憩 (Break)	
15:50-16:20 村落の発展におけるICTセンターの役割とGNH (The Role of Grewang ICT Centre for GNH)	Pulzer Galay (シェルブツェカレッジ国際交流課職員)
16:20-16:40 GNH発展のためのMOOCsの可能性 (Possibility of MOOCs for GNH Development)	山田 保太郎 (放送大学教授)
16:40-17:00 GNH社会に向けた公開遠隔教育 (Open Distance Learning toward GNH Society)	河合 博宣 (放送大学教授)
17:00-17:30 質疑応答 (Q & A)	
17:30-20:00 懇話会 (Banquet) 参加費 (Fee) ¥3,000	

※「授業料」は別表あり
会場への出入り人数が把握されており、参加を希望される方は、以下のWebページまたはFAXで2016年2月1日（月）までお申し込みください。
＜参加登録Webページ＞
<https://www2.cfu.ac.jp/bsc/2016/02/05/> (PC用)
<https://www2.cfu.ac.jp/bsc/2016/02/05/> (携帯用)

＜主催＞放送大学ブータン研究会 (学長、三輪 眞木子)
(後援) 総合振興会 国際交流課
東京文京学習センター
東京文京区文京5-1-3 電話: 03-5981-0888
東京文京区千本 5-1-10 電話: 03-5981-0888
東京文京区千本 5-1-10 電話: 03-5981-0888
東京文京区千本 5-1-10 電話: 03-5981-0888

教職員の海外派遣について

放送大学では、各国の遠隔教育機関において教育システム等の調査研究を行うとともに、教員の専門分野に関する国際研究集会等に参加する機会を与え、放送大学の教育・研究の改善・充実を図ることを目的とし教職員を諸外国に派遣しており、今年度は2名の教授を派遣した。関

根教授は、2015年6月23日から29日にかけてスウェーデンのマルメで開催されたヨーロッパスポーツ科学会議で研究発表を行い、稲村教授は2015年9月5日から13日にかけてオーストリアのウィーンで開催された狩猟採集民学会第11回大会において、研究発表を行った。

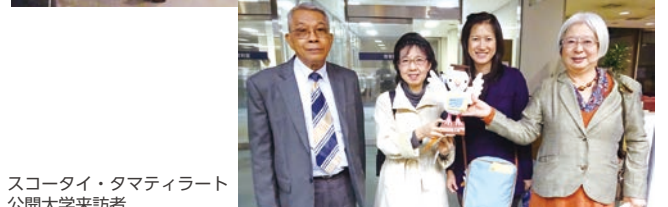
放送大学への海外からの来客

2015年度も、下記のとおり外国からの訪問者が遠隔教育に関する情報交換等のために本学を訪れた。

月日	来訪者
5月1日	サイバー大学(タイ) 来訪者受入(2名)
5月14日	広東公開大学(中国) 来訪者受入(7名)
8月31日	JICAイラン 来訪者受入(7名)
11月18日	スコタイ・タマティラート公開大学(タイ) 来訪者受入(3名)
12月8日	台湾空中大学 来訪者受入(2名)
2月4日～5日	ブータン王立シェルブツェ・カレッジ 来訪者(3名) ※河合教授プロジェクトによる招へい者
2月10日	スリランカ公開大学 来訪者受入(1名)
3月16日	モンゴル科学技術大学e-learning 公開教育機関 来訪者受入(2名)



広東公開大学来訪者
施設見学の様子



スコタイ・タマティラート
公開大学来訪者

社会への貢献

本学は「開かれた大学」として、建学以来、熱心に社会貢献に取り組んできた。多岐にわたる社会貢献活動を行っているが、ここではその中から、本学の教員が行った活動の一部を紹介する。

日本学術会議

日本学術会議は、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、昭和24年(1949年)1月、内閣総理大臣の所轄の下、政府から独立して職務を行う「特別の機関」として設立された。職務は、以下の2つである。

- 科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること。
- 科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること。

日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、生命科学、理学・工学の全分野における科学者約84万人を内外に代表する機関である。210人の会員と約2000人の連携会員によって職務が担われている。

日本学術会議の役割は、主に①政府に対する政策提言、②国際的な活動、③科学者間ネットワークの構築、

④科学の役割についての世論啓発である。

本学の教員も連携会員に選ばれ、その活動に貢献している。

下表は本学の会員加入状況を示すものである。

氏名	職名	専門分野
稲村 哲也	教授	地域研究、環境学
岩永 雅也	教授	心理学・教育学、社会学
内堀 基光	教授	地域研究
小川 正人	教授	心理学・教育学
宜保 清一	沖縄学習センター所長・特任教授	農学
原 純輔	宮城学習センター所長・特任教授	社会学
梅干野 晁	教授	土木工学・建築学
松本 忠夫	教授	統合生物学
宮本 みち子	副学長	社会学

学会、国、地方自治体等での活動

本学の教員は学識者として、それぞれの専門性を生かし、社会において幅広く活躍している。活躍の場は学会の

みならず、国・地方自治体等の様々な組織で活動し、社会の発展に寄与している。以下にその一部を紹介する。

氏名	職名	役職
宮本 みち子	副学長	労働政策審議会委員、社会保障審議会委員、一億総活躍国民会議構成員、内閣府子どもの貧困対策に関する検討会座長、横浜市専門委員、千葉市子ども子育て会議会長
関根 紀子	准教授	日本体力医学会評議員、文部科学省体力・運動能力調査協力者
小川 正人	教授	文部科学省・中央教育審議会副会長、初等中等教育分科会長、チームとしての学校・教職員の在り方に関する作業部会主査、東京都足立区教育委員(教育長職務代理者)、日本学術会議連携会員、国立教育政策研究所評議員(評議員会会長)、教科書研究センター理事
児玉 晴男	教授	一般社団法人企業法学会(日本学術会議協力学術研究団体)理事、一般社団法人日本機械学会(日本学術会議協力学術研究団体)法工学専門会議 運営委員会委員、足立区区民部調査等委託先選定委員会委員
岡田 光正	教授	中央環境審議会委員、水環境部会長、土壤農業部会長、有明海・八代海等総合調査評価委員会委員長、広島市環境審議会会長
梅干野 晁	教授	日本学術会議連携会員、一般社団法人日本建築学会環境設計運営委員会委員、2013~2015 地方裁判所調停委員
魚住 孝至	教授	文部科学省教科用図書審議会委員(倫理・現代社会小委員会委員長)、日本倫理学会 第33期 監事 編集委員、実存思想協会 理事 編集委員
内堀 基光	教授	日本文化人類学会評議員、人間文化研究機構総合地球環境研究所プロジェクト評価委員、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所海外拠点専門委員、日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム委員会委員
佐藤 良明	教授	表象文化論学会会長
滝浦 真人	教授	日本語学会評議員、同編集委員、日本語学学会運営委員(編集委員、大会企画委員)
大西 仁	准教授	日本認知科学会第32回大会プログラム委員長、日本認知科学会監査委員
加藤 浩	教授	日本教育工学会理事、科学研究費委員会専門委員(教育工学)、中央教育審議会専門委員(生涯学習分科会)
黒須 正明	教授	NPO法人人間中心設計推進機構名譽理事長
中谷 多哉子	教授	文部科学省 科学技術・学術審議会技術士分科会臨時委員、科学技術・学術審議会技術士分科会制度検討特別委員会委員、科学技術・学術審議会技術士分科会第二次試験適正化検討作業部会委員、日本技術者教育認定機構(JABEE) ソル協定対応プログラム部会委員、一般社団法人情報サービス産業協会(JISA) 要求工学部会副委員長、要求開発事例研究会委員、情報処理学会技術士委員会委員、情報処理学会・電子情報通信学会 論文査読委員、電子情報通信学会 知能ソフトウェア工学研究専門委員会委員、10th International Joint Conference on Software Technologies プログラム委員、りそな中小企業振興財団 中小企業優秀新技術・新製品賞専門審査委員、ソフトウェア技術者協会幹事
廣瀬 洋子	教授	一般社団法人 全国高等教育障害学生支援協議会 監事
加藤 和弘	教授	一般社団法人環境情報科学センター理事、日本緑化工学会理事、千代田区生物多様性推進会議副座長、平成27年度環境影響評価法に基づく報告書の在り方に関する検討会委員(日本環境アセスメント協会、環境省委託業務)、文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術動向研究センター専門調査員
小川 俊樹	教授	公益社団法人日本心理学会理事、日本ローレンツァハ学会常任理事
渋谷 治美	埼玉学習センター所長	中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会臨時委員(兼・課程認定委員会主査)
酒井 善則	東京渋谷学習センター所長	一般社団法人電子情報通信学会会長、総務省国立研究開発法人審議会会長、独立行政法人大学評価・学位授与機構学位審査委員会委員長、総務省情報通信行政・郵政行政審議会委員、総務省情報通信審議会専門委員
西田 正吾	大阪学習センター所長	システム制御情報学会会長、ヒューマンインタフェース学会評議員、電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーション基礎研究専門委員会顧問、日本学術振興会科学研究費委員会専門委員、一般財団法人懐徳堂記念会評議員
大平 文和	香川学習センター所長	大学連携e-learning教育支援センター四国、外部評価委員会、委員長、四国職業能力開発大学校部会、委員(座長)
菊川 律子	福岡学習センター所長	中央教育審議会委員(生涯学習分科会副委員長 生涯学習分科会学習成果部会長)、福岡県社会教育委員

一般向け講演会

大学で培われた教育ならびに研究の成果を広く社会に提供することは、大学と社会との垣根を取り去り、相互のさらなる発展が期待される。本学の教員は、そ

の専門知識を、講演会を通じて社会に還元している。以下にその活動の一部を紹介する。

一般向け講演会			
講師	職名	テーマ	共催等
宮本 みち子	副学長	無縁社会の全体像—家族社会学から	日本<家族と法>学会第31回学術大会シンポジウム
		子どもの未来を考える	足立区主催シンポジウム「子どもの貧困にどう向き合うか」基調講演
		単身化する社会の縁のゆくえ	せたがや自治政策研究所主催シンポジウム
		女性の経済力強化は母子の貧困化を防止する	独立行政法人労働政策研究・研修機構主催労働政策フォーラム「シングルマザーの就業と経済的自立」基調報告
		単身化する社会の絆づくり	新宿区自治創造研究所主催新宿区「自治フォーラム」基調講演
		無縁社会にしないために～私たちにできること～	公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会主催第26回心の健康会議
		単身化社会のゆくえと親密圏の再構築	生協総研第25回全国研究集会
		ポスト工業化時代の若者の今とこれから	千葉県高等学校長協会主催講演会
小城 勝相	教授	若年女性の貧困と労働	女性労働問題研究会「女性労働セミナー」基調講演
		一緒に考えよう!食事と健康と寿命	東京大学食の安全研究センター・第17回サイエンスカフェ
小川 正人	教授	教育政策の動向とゆくえ	東京都港区教育委員会教育課題研究会
		文部科学省の政策とチーム学校作業部会の審議—教育行政学の立場から	シンポジウム「すべての子どもを包括する支援システム：学際的議論」の基調講演
		近年の教育政策と学校教育の課題	山口県・先達岩本肇先生に学ぶ—刊行記念講演会
		教育の貧困対策とチーム学校構想—学校から教育と福祉の連携・協働を考える—	富山県寄附講義
岡田 光正	教授	豊かな海の再生～広島湾における水環境管理のあり方について～	国土交通省中国地方整備局
魚住 孝至	教授	武士道論の再考—刀と剣術の視点から	日本倫理学会主題別討議
		越後路の芭蕉と『おくのほそ道』	NHK文化講演(NHKラジオ第2でOA)
		江戸の武芸	杉の樹カレッジ
		宮本武蔵と姫路・明石藩	播磨学講演
		宮本武蔵『五輪書』に学ぶ	なぎなた錬成会
内堀 基光	教授	凡庸ながらマルクスの箴言から：サルルの解剖とヒトの解剖との対照の延長上で語ること	日本霊長類学会公開自由集会
佐藤 良明	教授	プレスリーの声の浸透と、日本の身体文化におけるその変容	京都大学人文科学研究所、国際シンポジウム(Echoes of Elvis)
島内 裕子	教授	徒然草と日本の文学	放送大学群馬学習センター公開講座土曜フォーラム
		徒然草と日本文学	放送大学岡山学習センター開設20周年記念特別講演会
		徒然草と枕草子	放送大学東京文京学習センター公開講座
宮下 志朗	教授	翻訳家の仕事—ある16世紀研究者の歩み	日仏翻訳文学賞第20回記念国際シンポジウム、「日本とフランス—翻訳文学の明日に向かって」基調講演
黒須 正明	教授	人間中心インタフェース	情報処理学会連続セミナー2015オーガナイザ、司会
		Quality Characteristics and Kansei	ACM SIGCHI Turkey Chapter
		UX and Quality Characteristics	ACM SIGCHI Indonesia Chapter
		Usability and UX from the Viewpoint of User Engineering	SBU Iran
		エンジニアの進むべき道—2020年のUI/UX～スマホ・タブレットの先にあるもの	デブサミ2015
廣瀬 洋子	教授	高等教育における障害者支援とICT	『聴覚障害者のための字幕付と技術』シンポジウム2015
		障害者差別解消法が高等教育に与える影響と障害のある学生への支援	第53回全国大学保健管理研究会シンポジウム：障害者差別解消法の施行と障害学生支援
鹿島 正裕	石川学習センター所長	イスラム過激派の脅威—中東諸国を中心に	野々市市コミュニティ・カレッジ講演会
菊川 律子	福岡学習センター所長	新しい教育の動向と中学校教育	福岡県中学校教頭会主催
		中央教育審議会の動向及び教育改革の方向性	福岡県小学校校長会主催
		男女共同参画社会と義務教育	福岡県教育センター主催
		社会教育の前進	福岡県社会教育総合センター主催

学習センターの活動、この1年

入学者の集い

4月と10月に、各学習センターで「入学者の集い」を開催した。全国で年間48,988名の学生と5,249名の大学院生が入学し、放送大学における学びへの第1歩を踏み出した。



秋田学習センター



高知学習センター



岡山学習センター



熊本学習センター

名誉学生への表彰

2010年4月に、放送大学の全コース(旧:6専攻)すべてを卒業した学生に対して、本学において多年にわたって修学を継続した意欲的な学習者を顕彰するとともに、本学学生の学習意欲の向上を図ることを目的として「名誉学生」という制度を設立した。

2015年度は、29名が名誉学生となった。名誉学生の資格を得たものは、3月の学位記授与式で学長表彰された。

なお、2011年度の表彰より、全コースすべてを卒業したことに加え、人物、学習態度が良好であることが要件となっている。

名誉学生には、本学を卒業した後も、学習センターの各種施設を利用することができる等各種特典を付与している。



新任の学習センター所長

2015年度は16の学習センターで新たに学習センター所長が就任し、学習センターのさらなる充実と発展の為の活動に取り組んでいる。

新任の学習センター所長一覧

青森学習センター	倉又 秀一(くらまた しゅういち)	京都学習センター	江崎 信芳(えさきのぶよし)
岩手学習センター	橋本 良二(はしもと りょうじ)	大阪学習センター	西田 正吾(にしだしょうご)
山形学習センター	櫻井 敬久(さくらい ひろひさ)	奈良学習センター	三野 博司(みの ひろし)
埼玉学習センター	渋谷 治美(しぶや はるよし)	和歌山学習センター	平田 健正(ひらた たてまさ)
新潟学習センター	大川 秀雄(おおかわ ひでお)	高知学習センター	吉倉 紳一(よしくら しんいち)
富山学習センター	北村 潔和(きたむら きよかず)	熊本学習センター	岡部 勉(おかべ つとむ)
福井学習センター	梅澤 章男(うめざわ あきお)	大分学習センター	前田 明(まえだ あきら)
滋賀学習センター	吉川 栄治(よしかわ えいじ)	沖縄学習センター	富永 大介(とみなが だいすけ)

3学習センターで周年記念式典を開催

愛媛、岡山の各学習センターでは開設20周年、群馬学習センターでは開設30周年を迎え、記念式典を開催した。これらの学習センターでの記念講演会では

岡部学長、宮本副学長が講演を行った。式典や講演等を通じ、参加者がふれ合い、学習センターの節目を祝った。



愛媛学習センター 記念式典とコレクション特別展



岡山学習センター 記念講演と池田家文庫見学



群馬学習センター 記念講演



地域に根ざした教育

面接授業

本年度も、多彩な面接授業が各学習センターで開講された。いろいろな学問分野の基礎だけではなく、地域に根ざす様々なテーマに関する授業が、大学教員に加えて各界で活躍する講師が担当して開講され、多数の学生が受講した。

- 岩手学習センター「火山灰から岩手山噴火を読む」
- 岐阜学習センター「森林バイオマスの有効利用」
- 群馬学習センター「群馬と日本の近代蚕糸業の軌跡」
- 滋賀学習センター「近江学入門」
- 神奈川学習センター「シーカヤック概論」
- 青森学習センター「発掘が語る縄文文化」



岩手学習センター「火山灰から岩手山噴火を読む」



岐阜学習センター「森林バイオマスの有効利用」



群馬学習センター「群馬と日本の近代蚕糸業の軌跡」



滋賀学習センター「近江学入門」



神奈川学習センター「シーカヤック概論」



青森学習センター「発掘が語る縄文文化」

地域をテーマとしたシンポジウム

東京渋谷学習センターは、国土交通省、渋谷区、渋谷区教育委員会、(独)都市再生機構の後援を受け、平成24年に渋谷にセンターが開設されて以来、初の公開シンポジウム「渋谷のこれからを考える～渋谷の都市再開発を中心に～」を開催した。

講演後、「新しい渋谷とは」をテーマに行われたパネルディスカッションでは、司会の酒井善則所長と講演者3名に長谷部健渋谷区長が加わり、渋谷の歴史や特徴を振り返りながら、今後の渋谷の都市再開発計画と渋谷のあり方について活発な討論が行われた。本学学生のみならず、都市で生活する方、都市に携わる方など、様々な立場の参加者からの活発な質疑応答も行われ、大変有意義なシンポジウムとなった。



シンポジウムの様子

集いの場としての学習センター

放送大学の学習センターでは、学生が勉学活動に利用するだけでなく、サークル活動や様々な共通関心事に関して、学生の交流活動が活発に行われている。学習センターは学生の集う場ともなっている。

サークル・学生活動

学生同士の親睦を深め、学業のみにとどまらない豊かなキャンパスライフを築いてもらうために、放送大学はサークル活動を支援している。サークル活動の中で、

年齢やこれまでの人生経験が全く異なる人達と、共通の目的を持って活動することは、素晴らしい体験となるであろう。



岐阜学習センター「Picassoの会」



高知学習センター「英語サークル」



秋田学習センター「学生サークル(調べ学習成果発表)」

文化祭

多くの学習センターでは、文化祭を開催し、学生の学習成果やサークル活動の成果を発表、披露している。文化祭は学生同士の交流の場であると同時に、教職員、そして地域の人々も参加し、交流を深める機会となっている。



鳥取学習センター「放大大祭り」



京都学習センター「京(みやこ)祭」



高知学習センター「芸術文化祭」



岐阜学習センター「学生作品展」



群馬学習センター「学園祭『知と和』」

研修旅行

全国の学習センターでは学生間の交流を図るため、また学生と職員の交流を図ることを目的として、研修旅行を実施している。



岐阜学習センター
京都府宇治市（平等院・源氏物語ミュージアム）



熊本学習センター
出島、三菱重工業長崎造船所資料館（世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」）



群馬学習センター
筑波研究学園都市、宇宙開発とロボット研究見学



滋賀学習センター
大阪歴史博物館、真田山、難波宮跡ほか



青森学習センター
三内丸山遺跡、縄文時遊館と八甲田山、田茂滝岳



石川学習センター
舞鶴市（赤レンガ博物館・智恵蔵〈引揚記念館〉・遊覧船）、敦賀市（敦賀ムゼウム）



大分学習センター
吉野ヶ里遺跡



福井学習センター
石川県金沢市（天徳院・ひがし茶屋散策の旅）

地域と密着する学習センター

学習センターでは、誰でも参加できる公開講演会、公開講座、シンポジウム等を多数開催している。放送大学学生にかぎらず、地域の人々に役立つ様々な話題について最新の知識が得られ、また共に考える機会を提供し

ている。講師は、放送大学関係者に加えて、それぞれの地域や分野で活躍する多彩な方々をお招きしている。以下は本年度開催されたもののほんの一例である。

公開講演会・公開講座

学習センター	題目	講師	
北海道学習センター	ヨーロッパの食の歴史	北海道学習センター客員教授	高橋 吉文
青森学習センター	日本の物理学の歩み ― 明治維新からノーベル賞まで ―	青森学習センター所長	倉又 秀一
岩手学習センター	ウルシ(漆)をつくって元気になろう岩手学	岩手学習センター所長	橋本 良二
宮城学習センター	在宅医療と地域包括ケアシステム	放送大学教授 医療法人社団鴻鶴会睦町クリニック院長	田城 孝雄 朝比奈 完
秋田学習センター	「南外の農作業着」に見る染色について	秋田学習センター客員教授	石黒 純一
山形学習センター	戦後政治70年の転換期	放送大学教授	御厨 貴
福島学習センター	どうなるのか日本の財政	放送大学客員教授	清水 修二
茨城学習センター	宇宙進化の不思議な現象	茨城学習センター所長	横沢 正芳
栃木学習センター	スキーの科学・登山の科学	放送大学長	岡部 洋一
群馬学習センター	岩宿遺跡とその時代	岩宿博物館館長	小菅 将夫
埼玉学習センター	シェイクスピアの魅力 ― 人間をどう描いたか、『リア王』を手がかりとして―	埼玉学習センター所長	渋谷 治美
千葉学習センター	無縁社会にしないために～私たちにできること～	放送大学副学長	宮本 みち子
東京足立学習センター	健康心理学～心とからだの健康をめざす心理学～	お茶の水女子大学教授	大森 美香
東京文京学習センター	「イスラム国」の野望	放送大学教授	高橋 和夫
東京渋谷学習センター	情報通信と社会	東京渋谷学習センター所長	酒井 善則
東京多摩学習センター	歴史と人間を考える ― 津田梅子の人生を通して ―	放送大学教授	杉森 哲也
神奈川学習センター	海運と港湾都市横浜	神奈川学習センター客員教授 横浜国立大学名誉教授	角 洋一
新潟学習センター	佐渡と越後の芸能	新潟大学名誉教授	萩 美津夫
富山学習センター	中高年からの体力づくりを考える	富山学習センター所長	北村 潔和
石川学習センター	前田家三代と百万石～律儀者の伝統～	金沢工業大学名誉教授	藤島 秀隆
福井学習センター	口笛の科学～口笛の発音原理と音の聞こえの仕組み～	福井学習センター客員准教授	森 幹男
山梨学習センター	やる気を育む心理学	山梨大学教授	進藤 聡彦
長野学習センター	“笹本正治” ― 諏訪信仰を熱く語る ―	信州大学副学長	笹本 正治
岐阜学習センター	岐阜県の地震環境を理解する ～迫り来る南海トラフ巨大地震による被害をどこまで防げるのか～	岐阜大学理事・副学長	杉戸 真太
静岡学習センター	家康の大御所政治と久能山	静岡大学名誉教授 前静岡学習センター所長	本多 隆成
愛知学習センター	オーロラを通して診る太陽と地球の関係	名古屋大学宇宙地球環境研究所教授	藤井 良一
三重学習センター	食品科学からみた忍者の非常食	三重学習センター客員教授	久松 眞
滋賀学習センター	東海道と湖南市の誕生・湖南三山・石部宿・湖南工業団地をつなぐもの・	滋賀学習センター客員教授	秋山 元秀
京都学習センター	和食・和酒と腸内細菌～おいしさと健康を贈る「おもてなし」～	京都大学名誉教授	天知 輝夫
大阪学習センター	絵巻に読む中世の大阪	放送大学教授	五味 文彦
兵庫学習センター	子どもの安全は大人たちのまなざしの先にある	兵庫学習センター客員教授	藤田 大輔
奈良学習センター	正倉院宝物の多彩な世界	奈良学習センター客員教授	三宅 久雄
和歌山学習センター	連携公開講座2015 「和歌山の優しい街づくりを目指して ～若者・子ども・街づくり～」『安全安心の子育て・子どもの看護』	和歌山学習センター客員准教授 和歌山県立医科大学教授	森下 順子 内海 みよ子

学習センター	題目	講師	
鳥取学習センター	「いま、ここで、これからの多文化共生を考える」	鳥取大学教授	仲野 誠
島根学習センター	学びを極めること	島根学習センター客員教授	高山 草二
岡山学習センター	ビタミンの話	岡山学習センター客員教授	虎谷 哲夫
広島学習センター	日本経済の見方・考え方 日本経済の現状と経済政策の意味	広島学習センター客員准教授	鈴木 喜久
山口学習センター	クスリの雑学	山口学習センター所長	阿部 憲孝
徳島学習センター	地域の個性が輝くまちづくり	徳島学習センター客員教授	近藤 光男
香川学習センター	「仏生山法然寺について」	香川県立ミュージアム専門学芸員	御厨 義道
愛媛学習センター	共生への道—理性は進化できるか?	愛媛学習センター所長	森 孝明
高知学習センター	南海地震が高知県を造る	高知大学総合研究センター特任教授	岡村 眞
福岡学習センター	「こころ」の測り方	九州大学大学院 人間環境学研究院教授	中村 知靖
佐賀学習センター	発酵食品はなぜ健康に良いか	佐賀大学農学部教授	北垣 浩志
長崎学習センター	暮らしに利用している水の不思議な力	長崎大学名誉教授	武政 剛弘
熊本学習センター	「人間性の探究～人間とは何かという問いをめぐって～」	熊本学習センター所長	岡部 勉
大分学習センター	壬申の乱と大分の君	前大分県立歴史博物館館長	高橋 徹
宮崎学習センター	宮崎の地震災害伝承から学ぶ知恵	宮崎大学工学教育研究部教授	原田 隆典
鹿児島学習センター	枕草子—どうして「春は曙」と始まるのか—	放送大学教授	五味 文彦
沖縄学習センター	看護学を学び、教育・実践・研究からの発見	琉球大学医学部保健学科准教授	大湾 知子

附属図書館所蔵コレクション展の開催

放送大学では、毎年、附属図書館が所蔵するコレクションの一部を各地で展示し、貴重な資料に触れる機会とするとともに、放送大学への理解を深めるきっかけとしていただいている。

2015年度は3つの学習センターと共催でコレクション展を実施した。いずれも、30周年、20周年の記念行事として行った。群馬では、群馬SCを会場に「ちりめん本と古写真」を展示した。山形では、山形SCの入居しているビルの1階のオープンなスペースで、「古写真」を展示した。愛媛では愛媛大学ミュージアムの多大な協力を得、「西洋人からみた日本」をテーマとした貴重書、ちりめん本、古写真等を展示し、内容も規模も大きな展示会となった。各会場がそれぞれ違った内容で、どの会場も盛況となり、合計で4,200人を越える来場者数となった。来場した一般の方には放送大学への理解を広め、放送大学の学生には放送大学への愛着を深める機会となった。



愛媛大学ミュージアムでの展示



群馬での展示



山形での展示

学習センター	期 間	会 場	来場者数(人)
群馬 学習センター	2015年 9月10日(木)～9月13日(日)	群馬学習センター (群馬県前橋市)	253
山形 学習センター	2015年 10月1日(木)～10月6日(火)	霞城セントラル1階 (山形県山形市)	993
愛媛 学習センター	2015年 11月11日(水)～12月21日(月)	愛媛大学ミュージアム (愛媛県松山市)	2,962

放送大学の新たな動き

新しい学び「オンライン授業」の充実へ

2015年度、放送大学学生の中にインターネットユーザが増えてきたことから、放送大学では全ての教材をインターネットで提供するオンライン授業を開講した。

オンライン授業では教材の提供をインターネットで行うとともに、インターネットの双方向性を活かして、全ての学習活動をインターネット上で行うことができる。

インターネットに接続できる環境があれば、場所や時間を問わず学習ができ、小テスト、ディスカッションなど双方向性を活かした学習が可能となる。

また、従来の放送授業と比べて開講までの時間が短いことから、新しい資格への対応など、社会的要請に即応した科目開設が可能となる。

2015年度には、幼稚園教諭免許状取得に係る特例

に対応した「教育課程の意義及び編成の方法('15)」、「幼児理解の理論及び方法('15)」の2科目を開設。さらに2016年度第1学期開設の学部6科目と大学院2科目の制作を行ったほか、2学期開設の特定行為に係る看護師の研修制度に対応する「フィジカルアセスメント特論('16)」「医療安全学特論('16)」「臨床推論('16)」の3科目の制作にも着手した。

2016年度開設の科目においては、小テスト、電子掲示板によるディスカッション、レポート提出、プログラミングやデータ解析の実習等、インターネット上での双方向性を活かし、学生の主体性をより重視した学習活動が行われることとなり、放送大学における「新しい学び方」が始まる。

2016年度開設学部課程科目

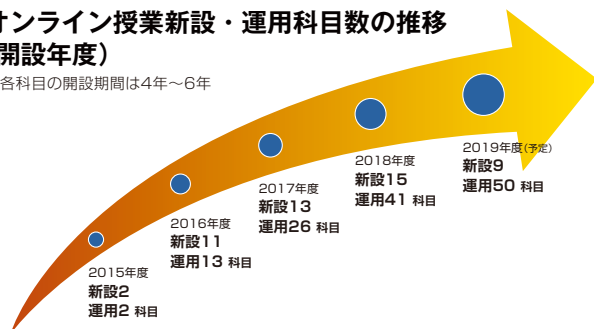
●科目名	●区分	●単位数	●主任講師
がんを知る('16)	生活と福祉 導入科目	2	田城 孝雄/放送大学教授 渡邊 清高/帝京大学准教授
女性のキャリアデザイン入門('16)	生活と福祉 導入科目	1	中野 洋恵/国立女性教育会館主任研究員 渡辺 美穂/国立女性教育会館研究員
物理演習('16)	自然と環境 専門科目	1	岸根 順一郎/放送大学教授 齋藤 雅子/宇都宮大学非常勤講師
Java プログラミングの基礎('16)	情報 専門科目	1	柳沼 良知/放送大学教授
感性工学入門('16)	情報 専門科目	1	黒須 正明/放送大学教授
メディアと知的財産('16)	情報 専門科目	2	児玉 晴男/放送大学教授

2016年度開設大学院課程科目

●科目名	●プログラム	●単位数	●主任講師
eラーニングの理論と実践('16)	情報学	2	青木 久美子/放送大学教授
生物の種組成データの分析法('16)	自然環境科学	2	加藤 和弘/放送大学教授

オンライン授業新設・運用科目数の推移 (開設年度)

※各科目の開設期間は4年～6年



制作年度	制作科目数	運用科目数	運用単位数
2015	11	2	2
2016	13	13	17
2017	15	26	38
2018	9(予定)	41	65
2019	未定	50(予定)	65+α

データで見る 放送大学の 概要

教職員数 [単位:人]

役員	7	※1
学長	1	
副学長	3	※2
教員	85	
事務職員	252	
合計	346	※3

(2016年3月31日現在)

※1 学長(理事)、副学長(理事)を含む

※2 副学長(理事)を含む

※3 重複があるため合計は一致しない

在学生数 [単位:人]

教養学部

学生の種別等	在学生
全科履修生	57,264
選科履修生	18,177
科目履修生	7,603
特別聴講学生	3,395
合計	86,439

(2015年度第2学期)

大学院

学生の種別等	在学生
修士全科生	1,123
修士選科生	3,719
修士科目生	672
博士全科生	24
合計	5,538

(2015年度第2学期)

集中科目履修生

学生の種別等	在学生
学校図書館司書教諭講習	803
看護師資格取得に資する科目	464
合計	1,267

(2015年度)

(注)特別聴講学生とは、他の大学等の学生で当該大学等と放送大学との協定に基づき、本学において科目の履修を行っている学生です。

入学者数 [単位:人]

教養学部

学生の種別等	1学期	2学期	合計
全科履修生	7,763	4,205	11,968
選科履修生	11,864	6,250	18,114
科目履修生	6,691	7,603	14,294
特別聴講学生	1,217	3,395	4,612
合計	27,535	21,453	48,988

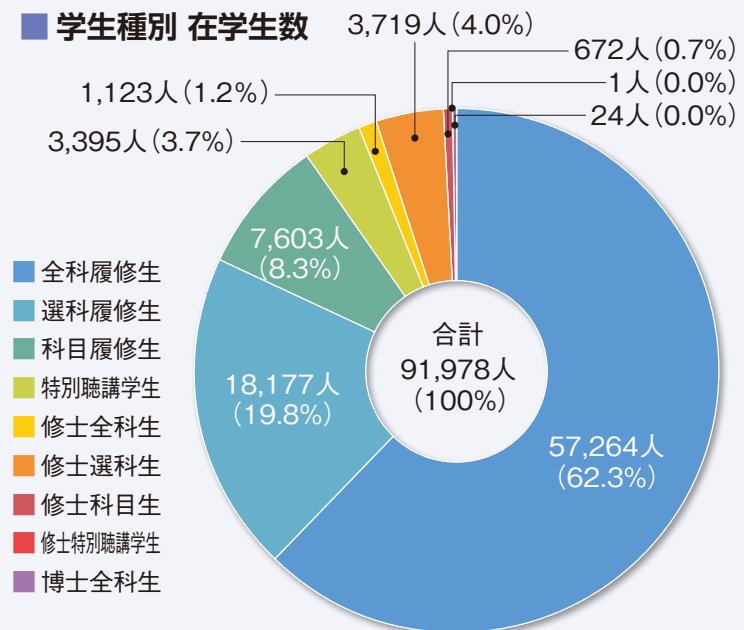
(2015年度)

大学院

学生の種別等	1学期	2学期	合計
修士全科生	386	—	386
修士選科生	2,600	1,085	3,685
修士科目生	504	672	1,176
修士特別聴講学生	1	1	2
博士全科生	12	—	12
合計	3,503	1,758	5,261

(2015年度)

学生種別 在学生数



学部卒業者数 [単位:人]

1学期	2学期	合計	累計
1,887	3,067	4,954	89,056

(2015年度)

大学院修了者数 [単位:人]

1学期	2学期	合計	累計
3	352	355	4,889

(2015年度)

単位互換協定締結校数 [単位:校]

学校の種別	大学院	大学	短大	高専	合計
校数	7	278	85	15	385

(2016年3月31日現在)



〒261-8586 千葉県美浜区若葉 2-11
TEL:043-276-5111(総合受付)
<http://www.ouj.ac.jp/>